

松蔭 校長室だより

—校長から保護者の皆様へのメッセージです—

2021年 5月 6日 発行

松蔭中学校・高等学校
校長 浅井宣光

「松蔭の制服が好きだ、この制服が象徴している松蔭という学校が好きだ、松蔭生であることは誇りだと、皆さんが思いながら成長していくために、私たち大人はここで働いている。一緒に誇りに思える学校を作っていこう。この制服をかつて着ていたたくさんの卒業生や、憧れてくれている人たちに対する責任を果たそう。過去、現在、未来、すべての松蔭生の誇りを大切にしよう。社会一般の人々に期待してもらい、その期待にも応えよう。」(1学期始業式「生徒部長の先生からのメッセージ」)

衣替え 「移行期間」についての生徒の意見から

夏冬の間服がない松蔭では、衣替えの期日は、校則のうえでは5月の第3土曜の次の月曜日となっています。しかし、温暖化の影響でしょうか、5月中旬には気温が高い日が増え、期日を早めることが多くなりました。例年、5月に入ると、天気予報とにらめっこの毎日ですが、今年も時期を1週間早めて、5月10日(月)とすることになりました。本日(6日)の終礼で生徒に伝達しています。年によっては肌寒い場合があり、多くの生徒がカーディガンを着用した年もありましたが、新緑の清々しさとともに教室の色合いが一気に明るくなります。衣替えの様子は、毎年、新聞各紙に取り上げられ、神戸の街の風物詩と言われているようです。

昨年秋、先生方の会議で制服の衣替えが話題となり、暑さ寒さの感じ方は様々なので「移行期間(夏服と冬服のどちらでも着用可)」を設けてはどうか、という意見が出されました。ならば生徒の意見も聞いてみよう、生徒会を通じて全クラスの生徒からの意見を集約したところ、次のような結果になりました。

(学年)	(移行期間は必要)	(移行期間は不要)
中学・高校	27.5%	72.5%
中学のみ	45%	55%
高校のみ	10%	90%

結果を見ますと、学年が上になるほど、従来とおりの一斉衣替えがよいとの意見が多く、高校では9割を占めています。「移行期間が必要」という理由として、「気温の感じ方に個人差があるから」「自分の体調に合わせたい」などの意見がほとんどでした。一方、「移行期間不要」派の生徒は、「一斉の衣替えの方が、統一感があるから」「伝統

だから」「季節の変わり目を実感できるから」という意見を述べていました。なかには「新聞記者が困るから」という声もあり、思わず吹き出しそうになりました。

1925(大正14)年、ワンピース型のまっ白な夏制服が制定されました。当時は長袖(そで)で襟(えり)のデザインも異なり、白ストッキングを着用していました。白いバックルの付いた黒ベルトは現在と同様で、清楚な美しさが際立っていました。(右の写真)翌年には、冬服が制定されました。当時の女学生にお決まりの装いであった着物に袴(はかま)姿とは違って変わった洋装制服です。毎朝、袖を通す新しい制服への誇りと愛着は生徒の愛校心を高め、同じ制服を着るよこびは、生徒の連帯感を育んだことでしょう。「移行期間」に関する意見に、「統一感」や「伝統」という言葉が登場します。松蔭生の自覚の証(あかし)だろうと、うれしい気持ちになりました。

冒頭の文章は、生徒部長の上原先生が、始業式で生徒たちに語ったメッセージです。長く歴史をもつ学校ならではの在校生への訓示であると同時に、教員が果たすべき使命を端的に表しています。来年、創立130周年を迎えますが、上の写真のような全校生写真の撮影を計画中です。「未来」の現役松蔭生が、このような「過去」の松蔭生の写真を見る機会があれば、脈々と流れ続ける学校の奥深さを実感するのではないのでしょうか。



<長袖(そで)と白ストッキングの当時の夏服の全校生写真>

*1935(昭和10年)撮影

夏休みの国際交流プログラムの中止について

海外ニュースで「トラベルバブル (Travel Bubble)」という用語を耳にするようになりました。新型コロナウイルス感染症の封じ込めに成功している隣国間で、相互に観光客を受け入れる制度です。「バブル」は泡のことですが、経済的、社会的に結び付きが強い領域を「バブル」(安全な枠組みのたとえ)の中に包まれた状態と見なし、感染防止策を講じた上で域内旅行を認めています。3月以来、台湾とパラオ、ニュージーランド(NZ)とオーストラリアの間でそれぞれスタートしています。

一方、日本国内では、医療体制がひっ迫し、緊急事態宣言も延長の見通しと報じられています。我が国を含めてワクチン接種が遅れパンデミックが続く国々では、トラベルバブルの実現はまだ遠い将来のことでしょう。NZには姉妹校の Peter's (セントピーターズ)校がありますが、現在、日本からの入国を厳しく制限しています。韓国にも姉妹校、信明(しんみよん)高校、聖明(そんみよん)女子中学校がありますが、現時点で韓国への入国には、PCR検査の陰性証明と2週間の隔離が義務付けられており、制限が緩和される見通しは立っていません。

昨年春のNZ春期交換留学の中止以来、姉妹校との交流プログラムはすべて中止していますが、今夏のプログラム(NZ短期語学研修、韓国異文化体験研修)についても、実施困難との判断に至りました。2年連続して中止せざるを得ないことは大変残念ですが、現在、以下のような代替英語研修プログラムを計画しています。詳細が決まり次第、お知らせします。

- 韓国 信明高校生とのオンライン交流(中3~高2対象。7月下旬予定)
- 校内での“One Day English Camp”(中3~高2対象。7月下旬予定)
- 韓国 聖明女子中学校とのペンフレンド交流(中学生対象。1~2学期)
- 2泊3日の校外“English Camp”(中3~高2対象。冬休み予定)

5月の行事予定

5月30日まで時差登校、45分授業となっています。また、PTA関係の日程についても変更しています。詳細は、各学年からの連絡でご確認ください。

- 5月7日(金) 40分授業 新入生への部活動紹介
- 5月10日(月) 高1、高2、高3実力考査
- 5月13日(木) 検尿
- 5月14日(金) 検尿 お誕生日礼拝
- 5月15日(土) 中3PTA学年集会
- 5月17日(月) 高校④校時まで
- 5月18日(火) 高校中間考査 中学授業③校時まで
- 5月19日(水) ~21日(金) 中間考査
- 5月21日(金) 中間考査最終日 ③校時「情報モラル」講演会(中学・高校)
- 5月22日(土) GS授業参観
- 5月24日(月) 高1⑤⑥Blue Earth塾(総合的な探究) 教育実習開始
- 5月27日(木) 中3全国学力学習状況調査(国語、数学)
- 5月30日(日) 第1回英検(一次試験会場校)